

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 6年 3月 19日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3492700053		
法人名	社会福祉法人 佐伯さつき会		
事業所名	グループホーム ゆうわせせらぎ園		
所在地	広島県廿日市市友田280番地 (電話) 0829-74-4700		
自己評価作成日	令和6年2月19日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3492700053-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和6年3月12日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームゆうわせせらぎ園は、自然豊かな環境に立地し、日々の暮らしの中で四季の移り変わりを楽しんでもいただけます。職員は事業所理念に掲げてある、「笑顔で安心して心暖まる日々を過ごして頂く為に、目配り、気配り、心配り」を意識して取り組んでいます。また、四季を楽しんで頂く為に、季節毎の行事も大切にしています。また、地域に暮らす高齢者の多様なニーズに応じるために、行政や関連事業者から必要な情報を収集して、適正な関係機関に繋げています。地域の方に気軽に窓口相談に来ていただける、敷居の低い施設を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、職員の働き方や就業場所などの意見を聴取し、運営に反映することで働きやすい職場の環境づくりに取り組んでいる。これにより、介護経験が豊富で事業所に長く在籍する職員が利用者と関わることで、利用者の能力を活かして日常生活リハビリを取り入れた支援の実践と、利用者家族へお便りや電話を通じて、日々の利用者の小さな要望や変化をこまめに伝達し、利用者の意向に添った支援ができるように取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項 目（西ユニット）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	玄関、職員室、ホームページに理念を提示し継続的に行っている。また、処遇に迷いが生じたときには確認を行っている。	理念について日々の業務上で職員が気付いたことを申し送りノートに記載し、職員間で共有している。月に一度の会議で理念に係る気付いたことを協議し、利用者が日々の暮らしを楽しめるよう、行事の企画や手作りの食事を提供する機会を設け、利用者の生活の質が向上するよう実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入し、地域の行事、清掃に参加している。また、正月や秋の祭り等の地域でイベントが行われる際には交流を図っている。	地域行事には、年に複数回利用者が参加し、顔見知りの地域住民から声をかけられ、交流する機会となっている。地域の小学校になじみが深い利用者は、家族と一緒に小学校の記念式典に参列している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	キャラバン・メイトの一員として、近隣小学校に訪問し、認知症の啓発活動を行っている。また、やすらぎ支援事業実習や、廿日市市高齢ケアセンターによるきっかけ講座を受け入れている。高校生のインターシップも受け入れている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヵ月に1回会議を行い近況報告を行っている。また、貴重な意見やアドバイスについては業務に活かしている。	運営推進会議は、参加者に負担のないよう、既定の時間で終了するように努めている。会議ではヒヤリハット件数について意見が上がったことから、職員が些細な危険に気付けるようになり、現在、事故防止に繋げる取り組みを実施している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議の市担当委員と情報交換、相談等をしている。	市民福祉グループリーダーや、駐在所の所員は運営推進会議で顔の見える関係を築いている。地域や、感染症の予防、事件情報、注意喚起などが行われている。	

自己 評価	外部 評価	項 目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	両ユニットの出入りは自由であり、閉塞感を感じないように配慮している。身体拘束委員会や業務会議で話し合っている。	3か月に1度身体拘束に係る委員会を実施し、事例検討やスピーチロック（言葉による拘束）に対する言い換え表現、グレーゾーンについて意見交換を行っている。年2回勉強会を開催し、身体拘束が認められるケースと、その際の手順について知識を習得する機会を設けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束廃止基本方針・高齢者虐待防止についてのマニュアルを作成し、介護技術向上委員会で人権に関する研修を実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人制度を利用されている入居者がおられる。そのため、制度に関する理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項を基に、職員配置状況、利用料、退所時期等、不安や疑問なども配慮して説明し、理解をいただけるように努めている。また、制度の変更時もその旨を説明し、文書にて同意を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年3回、外出行事を計画し、家族にも参加して頂くことで円滑にコミュニケーションを図りやすい関係作りに努めている。また、些細なことでも変化があれば家族に報告し、情報共有に努めている。苦情相談窓口を設置し重要事項、ホームページ等で案内している。	事業所から利用者家族へ、月に1度園だよりの送付と、担当職員が手書きで一言様子を添えて、些細なことも報告するように努めている。利用者の内服薬について、医師の意見と併せて家族に報告、相談し、減薬に繋げた実例がある。	

自己 評価	外部 評価	項 目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1回業務会議を開き、意見や提案を反映している。年1回個人面接を行っている。	職員から働き方の希望や、業務分担、利用者の心身状態の変化に伴う住み替えの提案などが随時役職者に伝えられ、定年年齢の延長や、業務内容の一部変更を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の資格取得を支援し、取得者には昇級、昇任で給料等の処遇面に反映させている。令和6年度よりキャリアパス要件を明確にして、勤務年数、職責に応じて評価する仕組みを取り入れている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内研修を計画し、職員が参加しやすいように配慮している。外部研修にも職員の希望を取り入れながら計画している。また、毎年開催される法人内研究発表にて、取り組み内容について発表している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	各老人福祉施設連絡協議会に加入し、情報交換や研修会に参加している。地域の福祉施設と定期的に交流会議を行っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用開始前の面接にて、本人・家族とのコミュニケーションをしっかりと図り、不安や心配を取り除けるように配慮している。園での生活については、しっかりと説明を行い、入居後の生活をイメージして頂けるように努めている。入居前の見学についても受け入れている。		

自己 評価	外部 評価	項 目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス利用前の相談、見学の時から家族の不安や要望をお聞きし、利用開始後は面会時などに近況報告を行っている。意見や要望をお聞きしながら信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事前に生活状況や生活環境を把握し、本人の希望を聞き、今までの慣れた生活を大切にしながら、必要な支援が行えるように配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	施設ではあるが、家庭の延長を意識している。一人ひとりの入居者が個性を発揮しながら日常生活を楽しんで頂けるように配慮している。利用者と一緒に出来る家事等是一緒に行って仕事を共有し、趣味等得意な分野は教えてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	定期的に行事にお誘いし、家族と入居者が一緒に過ごせる時間が設けられるように配慮している。また、園だよりや面会等により近況報告を定期的に行っている。家族と「報連相」を基本にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	地域イベントの参加や、家族の集まり等を通じて、家族の協力を得ながら馴染みの場所への外出を続けている。また、お手紙などを通じて馴染みの方との連絡も続けている。	地域行事に参加した先では、知人や友人と顔を合わせる機会となっている。馴染みのある商店街やスーパーに出かけて買い物をしたり、通院の機会に馴染みのある場所を通って行くこともある。	

自己 評価	外部 評価	項 目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食事の準備、調理、買い物、レクリエーション、園芸活動等を通じて、一緒に物事を楽しんで頂けるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	住み替えが必要な際の退居時には、関係者としつかりと情報共有を図り、暮らしの継続が行われるように配慮している。また、当法人の関係場所へ移られる方も多いため、関係性は継続しやすい状況である。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の望む生活を支えられるように、生活の意向や希望の把握に努め、家族からも情報収集を行っている。	普段から利用者の意向を聴取し、生活歴や、喜ぶことを情報収集している。意向の表出が困難な場合は、家族の思いを尊重し、利用者の生活歴などから好みそうなものを選んで提供し、表情から反応を観察するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人や家族、関係機関より情報収集を行っている。また、日常生活の何気ないやり取りや会話の中から新しい気づきの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の生活記録を大切にし、状況把握に努めている。また、新しい気づきがあれば、アセスメントに記入するように努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人や家族から生活の意向や希望の把握に努め、しっかりと情報収集を行うことでニーズを把握しケアプランの立案に努めている。	半年に1度評価を行い、計画の見直しを行っている。毎月開催している業務会議で個別の援助方法を検討し、利用者の能力を活かした役割や、下肢筋力低下予防のための散歩などが計画されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録が根拠となるため、しっかりと記録を残す様に努めている。記録を基に気づきや情報を共有し、ケアプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人や家族の要望に応じて、柔軟な対応を心がけている。遠くの病院への付き添い受診、帰宅の援助を行うこともある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	身だしなみについては、地域の理容店の協力も得て、散髪や髪染めを行っている。また、社会福祉協議会の貸付サービスを利用し、レクリエーションを楽しんで頂けるように配慮している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医が継続できる方は継続していただいている。また、かかりつけ医の協力もあり、往診にて定期的に健康管理を行っている。希望者については、訪問歯科による口腔ケアを受けている。	利用者と家族へかかりつけ医の継続が可能であることと、訪問診療について説明し、希望する医師の診察が受けられるように支援している。通院は家族に同行を依頼し、必要に応じて職員や看護師が同席する場合がある。	

自己評価	外部評価	項 目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日頃から看護師と相談し、入居者が適切に受診や看護を受けられるように配慮している。往診時に気づき、異変を医師に伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は医療機関と情報を交換している。現状の把握と共に、早期に退院ができる様に医療機関や家族と情報共有に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居者の状態が変化し重度化した場合は、入院も含め、その後の対応を本人・家族、医療機関と相談を行っている。	緊急時の対応についてや、終末期の迎え方についての意向を確認している。利用者の心身状態に応じて、住み替えの提案などを行い、希望に添った過ごし方ができるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時対応の研修を行っている。マニュアルを作成し確認を行っている。AEDの使用方法を訓練している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災計画、消防計画を作成し、年2回訓練を実施している。自治会に加入し地域との連携も図っている。自然災害時BCP（事業継続計画）を作成し、災害備蓄品を備えている。	火災の昼夜を想定した避難訓練を年3回実施している。事業所は地域の避難所として食品などの備蓄を有している。地域と協定を締結し、有事の際は相互に協力する体制を築いている。	

自己評価	外部評価	項 目（西ユニット）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	1人ひとりを尊重し、「目配り、気配り、心配りを」をモットーに接している。居室はプライベート空間として過ごして頂いている。	職員は法人が指定する機関の接遇研修を受講し、知識を得ている。居室やトイレの扉を閉め、汚物はバッグに入れて運ぶなどプライバシーを確保する取り組みを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入浴の衣類等の衣服を選ぶ際には、本人と共に準備し、着替える服を選んで頂けるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1人ひとりの生活ペースを大切にするように心がけている。就寝後でも、眠れない入居者には職員が寄り添い一緒に過ごすように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎朝、人前に出る前には身だしなみを整えて頂けるように配慮している。月1回は地域の理容店にお願いし、希望者には髪をカットしたり、毛染めをお願いしている。面会時にお化粧をして家族と会うこともある。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	日頃より、食事の盛り付けや食器洗い等の片づけを職員と共にして頂いている。また、近所のスーパーへ一緒に買い物に行き、一緒に夕食作りを行っている。	食事は、管理栄養士の献立により、同一建物1階で調理している。事業所の敷地で育てた野菜を収穫して食べたり、誕生日に担当職員と一緒に好みのものを食べるために外食している。	

自己評価	外部評価	項 目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	管理栄養士による献立により、栄養摂取 や水分補給を行い、必要に応じて個別対 応を行っている。また、食事量の確認も 行い、嚥下状態に応じて食べやすい食事 形態にも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、必要 な方には職員が介助を行っている。ま た、希望者については、週1回、訪問歯 科による歯科衛生士より口腔ケアを受け ている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を用い個別の排泄パター ンの把握に努めている。必要な方にはト イレ誘導や声掛けを行っている。尿意の 訴えのない方にも失敗のないようにトイレ での排泄介助に努めている。	各居室にトイレを設置しており、排泄が 自立している利用者には聞き取りで排泄 の有無を確認している。利用者の状態に 応じて個別に必要な物品を選定し、誘導の 回数などを変更している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎朝、体操後の水分補給や食事量、排泄 の確認を行っている。下剤を使用されて いる方については排便の有無を確認しな がら看護師の指示のもと、適宜対応して いる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	入浴は午後より行っているが、一人ひと りの体調や希望に応じて入浴日の変更や 時間の変更を行っている。また、必要な 方について機械浴を行っている。定期的 に入浴剤等を使用し、温泉気分を味わっ て頂いている。	リフト浴の設備を有しており、利用者全 員が浴槽に浸かることが可能となってい る。入浴剤を複数用意し、利用者が選 び、楽しみとなるよう支援している。入 浴が苦手な利用者には、職員や時間を変 え、気分を変えて声をかけるなどの工夫 を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	1人ひとりのペースで、居室や フロアに設置してあるソファー に座り休まれている。また、空 調や夜間の照明等にも環境に 配慮を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	処方された薬については、薬局 より準備された表を専用ファイ ルに綴じていつでも確認でき るように努めている。また、内 容に変更が生じた際にはその都 度確認を行っている。また、配 薬についてはマニュアルを作成 し、誤薬予防に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	日々の暮らしの中で、食事の盛 り付けや片付け等で役割や、残 された力を発揮して頂けるよう に努めている。また、家族の定 期的な面会であったり、差し入 れ、天候が良い日には外に出 たりと、気分転換や楽しみを感 じて頂けるように配慮している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	天候を考慮しながら、定期的に 外に出る機会を設けている。家 族様の協力を得て、墓参りや自 宅へ外泊された方もおられる。 夕食の準備で、近所のスーパー へ買い物にも定期的に出かけて いる。出身小学校150周年記念 式典へ付き添っている。	日常的に車いすの利用者も散歩 に出ている。車でまちの駅や桜 の花見に外出し、家族と現地で 合流し共に過ごしてもらおう 等、普段行けないような場所 にも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	本人の希望や、家族の希望があ れば現金を自分で管理して頂い ている。外出先での金銭の使用 については、必要に応じて援 助や助言を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者によっては定期的に手紙が届きやりとりをされている。正月には、ご家族様宛にお手紙を書くお手伝いをしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感を感じて頂けるように、フロアのテーブル上にお花を飾ったり、季節に応じた飾りを作成して季節感を楽しんで頂いている。	職員と利用者が協同して、季節毎の装飾や制作物の作成を行っている。共用部の清掃は利用者と職員が一緒に行っている。生花を利用者に生けてもらうこともある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テレビ前にソファを設置し、少人数で過ごせたり、昼コーナーもありゆっくりと過ごせる空間を整えている。また、食事の席などでも人間関係に配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、馴染みの家具や写真などを配置し、暮らしの継続を意識して頂けるように配慮している。家族にも居室は個人スペースとして活用して頂くように説明している。	各居室には洗面台と、トイレを設置している。室内には、自宅から持ち込んだ趣味の作品や、家族の写真を飾り、使い慣れたタンスを配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室の入り口には名札を用意している。食堂や廊下、トイレ、浴室に手摺を設置しバリアフリーで安全に移動できるように配慮している。また、居室内でも立ち上がりや、動線に不安がある入居者にはタッチアップを設置し転倒予防に努めている。		

V アウトカム項目(西ユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己 評価	外部 評価	項 目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	玄関、職員室、ホームページに理念を提示し継続的に行っている。また、処遇に迷いが生じたときには確認を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入し、地域の行事、清掃に参加している。また、正月や秋の祭り等の地域でイベントが行われる際には交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	キャラバン・メイトの一員として、近隣小学校に訪問し、認知症の啓発活動を行っている。また、やすらぎ支援事業実習や、廿日市市高齢ケアセンターによるきっかけ講座を受け入れている。高校生のインターシップの受け入れている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヵ月に1回会議を行い近況報告を行っている。また、貴重な意見やアドバイスについては業務に活かしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議の市担当委員と情報交換、相談等をしている。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ 東ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	両ユニットの出入りは自由であり、閉塞感を感じないように配慮している。身体拘束委員会や業務会議で話し合っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束廃止基本方針・高齢者虐待防止についてのマニュアルを作成し、介護技術向上委員会で人権に関する研修を実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人制度を利用されている入居者がおられる。そのため、制度に関する理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項を基に、職員配置状況、利用料、退所時期等、不安や疑問なども配慮して説明し、理解をいただけるように努めている。また、制度の変更時もその旨を説明し、文書にて同意を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年3回、外出行事を計画し、家族にも参加して頂くことで円滑にコミュニケーションを図りやすい関係作りに努めている。また、些細なことでも変化があれば家族に報告し、情報共有に努めている。苦情相談窓口を設置し重要事項、ホームページ等で案内している。		

自己評価	外部評価	項 目（ 東ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1回業務会議を開き、意見や提案を反映している。年1回個人面接を行う。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の資格取得を支援し、取得者には昇級、昇任で給料等の処遇面に反映させている。令和6年度よりキャリアパス要件を明確にして、勤務年数、職責に応じて評価する仕組みを取り入れる。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内研修を計画し、職員が参加しやすいように配慮している。外部研修にも職員の希望を取り入れながら計画している。また、毎年開催される法人内研究発表にて、取り組み内容について発表している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	各老人福祉施設連絡協議会に加入し、情報交換や研修会に参加している。地域の福祉施設と定期的に交流会議を行っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用開始前の面接にて、本人・家族とのコミュニケーションをしっかりと図り、不安や心配を取り除けるように配慮している。園での生活については、しっかりと説明を行い、入居後の生活をイメージして頂けるように努めている。入居前の見学についても受け入れている。		

自己 評価	外部 評価	項 目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス利用前の相談、見学の時から家族の不安や要望をお聞きし、利用開始後は面会時などに近況報告を行っている。意見や要望をお聞きしながら信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事前に生活状況や生活環境を把握し、本人の希望を聞き、今までの慣れた生活を大切にしながら、必要な支援が行えるように配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	施設ではあるが、家庭の延長を意識している。一人ひとりの入居者が個性を発揮しながら日常生活を楽しんで頂けるように配慮している。利用者と一緒に出来る家事等是一緒に行って仕事を共有し、趣味等得意な分野は教えてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	定期的に行事にお誘いし、家族と入居者が一緒に過ごせる時間が設けられるように配慮している。また、園だよりや面会等により近況報告を定期的に行っている。家族と「報連相」を基本にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	地域イベントの参加や、家族の集まり等を通じて、家族の協力を得ながら馴染みの場所への外出を続けている。また、お手紙などを通じて馴染みの方との連絡も続けている。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ 東ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食事の準備、調理、買い物、レクリエーション、園芸活動等を通じて、一緒に物事を楽しんで頂けるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	住み替えが必要な際の退居時には、関係者としつかりと情報共有を図り、暮らしの継続が行われるように配慮します。また、当法人の関係場所へ移られる方も多いため、関係性は継続しやすい状況である。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の望む生活を支えられるように、生活の意向や希望の把握に努め、家族からも情報収集を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人や家族、関係機関より情報収集を行っている。また、日常生活の何気ないやり取りや会話の中から新しい気づきの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の生活記録を大切にし、状況把握に努めている。また、新しい気づきがあれば、アセスメントに記入するように努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人や家族から生活の意向や希望の把握に努め、しっかりと情報収集を行うことでニーズを把握しケアプラン立案に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録が根拠となるため、しっかりと記録を残す様に努めている。記録を基に気づきや情報を共有し、ケアプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人や家族の要望に応じて、柔軟な対応を心がけている。遠くの病院への付添受診、帰宅の援助を行うこともある。食事、買い物外出付添。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	身だしなみについては、地域の理容店の協力も得て、散髪や髪染めを行っている。また、社会福祉協議会の貸付サービスを利用し、レクリエーションを楽しんで頂けるように配慮している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医が継続できる方は継続していただいている。また、かかりつけ医の協力もあり、往診にて定期的に健康管理を行っている。希望者については、訪問歯科による口腔ケアを受けている。		

自己 評価	外部 評価	項 目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日頃から看護師と相談し、入居者が適切に受診や看護を受けられるように配慮している。往診時に気づき、異変を医師に伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は医療機関と情報を交換している。現状の把握と共に、早期に退院ができる様に医療機関や家族と情報共有に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居者の状態が変化し重度化した場合は、入院も含め、その後の対応を本人・家族、医療機関と相談を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時対応の研修を行っている。マニュアルを作成し確認を行っている。AEDの使用方法を訓練している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災計画、消防計画を作成し、年2回訓練を実施している。自治会に加入し地域との連携も図っている。自然災害時BCPを作成し、災害備蓄品を備えている。		

自己評価	外部評価	項 目（ 東ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	1人ひとりを尊重し、「目配り、気配り、心配りを」をモットーに接している。居室はプライベート空間として過ごして頂いている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入浴の衣類等の衣服を選ぶ際には、本人と共に準備し、着替える服を選んで頂けるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1人ひとりの生活ペースを大切にするように心がけている。就寝後でも、眠られない入居者には職員が寄り添い一緒に過ごすように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎朝、人前に出る前には身だしなみを整えて頂けるように配慮している。月1回は地域の理容店にお願いし、希望者には髪をカットしたり、毛染めをお願いしている。面会時にお化粧をして家族と会うこともある。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	日頃より、食事の盛り付けや食器洗い等の片づけを職員と共にして頂いている。また、近所のスーパーへ一緒に買い物に行き、一緒に夕食作りを行っている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	管理栄養士による献立により、栄養摂取 や水分補給を行い、必要に応じて個別対 応を行っている。また、食事量の確認も 行い、嚥下状態に応じて食べやすい食事 形態にも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、必要 な方には職員が介助を行っている。ま た、希望者については、週1回、訪問歯 科による歯科衛生士より口腔ケアを受け ている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を用い個別の排泄パター ンの把握に努めている。必要な方にはト イレ誘導や声掛けを行っている。尿意の 訴えのない方にも失敗のないようにトイレ での排泄介助に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎朝、体操後の水分補給や食事量、排泄 の確認を行っている。下剤を使用されて いる方については排便の有無を確認しな がら看護師の指示のもと、適宜対応して いる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	入浴は午後より行っているが、一人ひと りの体調や希望に応じて入浴日の変更や 時間の変更を行っている。また、必要な 方について機械浴を行っている。定期的 に入浴剤等を使用し、温泉気分を味わっ て頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	1人ひとりのペースで、居室や フロアに設置してあるソファ ーに座り休まっている。また、 空調や夜間の照明等にも環境 に配慮を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	処方された薬については、薬局 より準備された表を専用ファイ ルに綴じていつでも確認でき るように努めている。また、内 容に変更が生じた際にはその都 度確認を行っている。また、配 薬についてはマニュアルを作成 し、誤薬予防に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	日々の暮らしの中で、食事の盛 り付けや片付け等で役割や、残 された力を発揮して頂けるよう に努めている。また、家族の定 期的な面会であったり、差し入 れ、天候が良い日には外に出 たりと、気分転換や楽しみを感 じて頂けるように配慮している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	天候を考慮しながら、定期的に 外に出る機会を設けている。家 族様の協力を得て、墓参りや自 宅へ外泊された方もおられる。 夕食の準備で、近所のスーパー へ買い物にも定期的に出かけて いる。出身小学校150周年記念 式典へ付き添った。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	本人の希望や、家族の希望があ れば現金を自分で管理して頂い ている。外出先での金銭の使用 については、必要に応じて援 助や助言を行っている。		

自己 評価	外部 評価	項 目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者によっては定期的に手紙が届きやりとりをされている。正月には、ご家族様宛にお手紙を書くお手伝いをしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感を感じて頂けるように、フロアのテーブル上にお花を飾ったり、季節に応じた飾りを作成して季節感を楽しんで頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テレビ前にソファを設置し、少人数で過ごせたり、昼コーナーもありゆっくりと過ごせる空間を整えている。また、食事の席などでも人間関係に配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、馴染みの家具や写真などを配置し、暮らしの継続を意識して頂けるように配慮している。家族にも居室は個人スペースとして活用して頂くように説明している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室の入り口には名札を用意している。食堂や廊下、トイレ、浴室に手摺を設置しバリアフリーで安全に移動できるように配慮している。また、居室内でも立ち上がりや、動線に不安がある入居者にはタッチアップを設置し転倒予防に努めている。		

V アウトカム項目(東) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームゆうわせせらぎ園

作成日 令和6年4月12日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における 問題点, 課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	9	現状のアセスメント表では、課題や残された能力の評価方法が不十分になりやすい。	グループホームの特色を活かしながら、機能訓練が行えるようになる。	アセスメント様式をグループホームの特色に沿った内容に改善する。	1年
2	15	食事の時間をより一層楽しんで頂けるように配慮したい。	週1回は、朝・昼・夕の3食を、職員と入居者様とで協力して食事作りを楽しみ、日常生活リハビリを実施する。	調理とも連携し、毎週日曜日に朝・昼・夕の3食を入居者様と職員で食事作りを実施。	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。